

貯 法：室温保存

使用期限：3年（ラベルに表示の使用期限を参照すること。）

	ヒマシ油「マルイシ」	加香ヒマシ油「マルイシ」
承認番号	16100AMZ01016	16100AMZ01017
薬価収載	1955年9月	
販売開始	1955年9月	
再評価結果	1981年8月	

下剤

ヒマシ油「マルイシ」

日本薬局方 ヒマシ油

加香ヒマシ油「マルイシ」

日本薬局方 加香ヒマシ油

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- 急性腹症が疑われる患者〔蠕動運動亢進作用により、症状を悪化させるおそれがある。〕
- 痙れん性便秘の患者〔蠕動運動亢進作用により、症状を悪化させるおそれがある。〕
- 重症の硬結便のある患者〔本剤では効果が得られず、症状を悪化させるおそれがある。〕
- ヘノボジ油、メンマ等の脂溶性駆虫剤を投与中の患者〔これらの薬剤の吸収を促進して中毒を起こすおそれがある。〕
- 燐、ナフタリンなどの脂溶性物質による中毒時〔これらの物質の吸収を促進させるおそれがある。〕

【組成・性状】

製品名	ヒマシ油「マルイシ」	加香ヒマシ油「マルイシ」
組成	1 mL中 日局ヒマシ油 1 mL 含有。 トウゴマ <i>Ricinus communis</i> Linné (<i>Euphorbiaceae</i>) の種子を压榨して得た脂肪油である。	100mL中 ヒマシ油 99mL 及び添加物としてオレンジ油、ハッカ油含有。
性状	無色～微黄色澄明の粘性の油で、わずかに特異なおいがあり、味は初め緩和で、後にわずかにえぐい。	無色～類黄色澄明の濃稠な液で、芳香がある。

【効能・効果】

便秘症、食中毒における腸管内容物の排除、消化管検査時または手術前後における腸管内容物の排除

【用法・用量】

ヒマシ油として、通常、成人は15～30mL（増量限度60mL）、小児は5～15mL、乳幼児は1～5mLを、それぞれそのまま、または水、牛乳などに浮かべて頓用する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

小腸の消化吸収を妨げ全身の栄養状態に影響を及ぼすことがあるので連用を避けること。

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
消化器	悪心・嘔吐・腹痛等
過敏症 ^(注)	過敏症状

(注) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

4. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 妊婦または妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。〔子宮収縮を誘発して流産の危険性がある。〕
- 授乳中の婦人には投与しないことが望ましい。〔ヒト母乳中に移行し乳児の下痢を起こすことがある。〕

5. 適用上の注意

投与時：

即効性であるので就寝前の服用を避けさせること。

【薬効薬理】

ヒマシ油は小腸内でリパーゼにより、グリセリンとリシノール酸に加水分解され、このリシノール酸が小腸を刺激し瀉下作用をあらわす。^{1),2)}

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：ヒマシ油 (Castor Oil)

比重 d_4^{20} ：0.953～0.965

酸価：1.5以下

けん化価：176～187

水酸基価：155～177

ヨウ素価：80～90

性状：無色～微黄色澄明の粘性の油で、わずかに特異なおいがあり、味は初め緩和で、後にわずかにえぐい。
エタノール(99.5)、またはジエチルエーテルと混和する。
エタノール(95)に溶けやすく、水にほとんど溶けない。
0℃に冷却するとき、粘性を増し、徐々に混濁する。

【包装】

ヒマシ油「マルイシ」 500mL
加香ヒマシ油「マルイシ」 500mL

【主要文献】

- 熊谷 洋他：臨床薬理学大系，第8巻，188（1972）
- L. S. Goodman & A. Gilman：The Pharmacological Basis of Therapeutics (5th. Ed.)，1002（1975）

【文献請求先】

丸石製薬株式会社 学術情報部
〒538-0042 大阪市鶴見区今津中2-4-2
TEL.0120-014-561

製造販売元

丸石製薬株式会社
大阪市鶴見区今津中2-4-2